

あらゆる組織破壊策動を許さず、新生 J R 東労組の旗の基に結集し、

組合員の雇用と利益を守り抜くための秋田地本見解

J R 東労組秋田地本は、18 春闘を「大敗北」と総括し、これまでの運動を反省すると共に組合員の声を受け止める新生 J R 東労組運動を中央本部と共につくり出してきた。そして、再スタートとなった 2018 年 4 月の臨時大会以降、7 名の仲間が再結集し共に運動を進めている。

秋田地本は、昨年「新たなジョブローテーションの実施について」をはじめ、「乗務員基地再編」「ワンマン運転の拡大について」等の施策に対して、組合員の声に基づいた職場議論を積み上げ、施策に対する様々な感情は抱きつつも、提案された施策に対し真剣に向き合い、団体交渉を精力的に行ってきた。今後も「安全・健康・ゆとり・働きがい」を実感できる職場をつくりあげるために、新生 J R 東労組の旗の下に結集することを、全ての組合員・離脱者に堂々と訴えていく。

そのような中、水戸・東京・八王子地本の一部の職場で、新生 J R 東労組運動と決別する分裂策動が進められ、ある職場では「J R 東労組に残るのか」「分裂組織にいくのか」「組合を辞めるのか」の選択を迫られていることが中央本部に報告されている。このような行為は、組合員の雇用と利益を守るという労働組合の責務を放棄した行為であり、無責任な分裂策動を先導する者を断じて許すことはできない。良識ある組合員を騙して“分裂組織”に連れていくのはやめるべきだ！

組合員が求めているものは仲間同士楽しく語らい、安心して働ける環境と差別なく業務に専念できる職場環境の整備である。そのためには、職場から議論を積み上げてつくる団体交渉が必要であり、労働組合の存在無しには成しえない。親睦団体であり、団体交渉権の無い社友会では実現できない。

秋田地本申 7 号交渉では、「会社は労働組合の脱退・加入について一切関与しない。」ことを確認してきた。しかし、職場からは脱退の懲罰であったと受け止めた事象も報告されている。不当労働行為は、具体的な事実を示して、職場で全組合員のたたかいへ高めることが必要である。この組織内部の混乱に乗じて組合員を脱退させようとする、あらゆる策動・懲罰を許さないたたかいを継続して取り組んでいく。

J R 東労組は、今年結成 33 年を迎える。J R 東労組には多くの組合員のたたかいによって積み上げてきた労働協約があり、雇用と利益を守るために結集した多くの組合員がいる。今回の分裂策動は、この間の苦闘を無にするものである。新生 J R 東労組に対する分裂策動や組織混乱を煽り、組合員を感わし脱退策動を行う者とは断固としてたたかう。それが組合員と新たな決意でつくりあげてきた新生 J R 東労組秋田地本の総意である。

秋田地本はあらゆる組織破壊策動を許さず、新生 J R 東労組の旗の基に結集し、組合員の雇用と利益の確保に向け全組合員でたたかいをつくりだすことを明らかにし、見解とする。

2020年1月24日
東日本旅客鉄道労働組合
秋田地方本部